

(地域施策推進事業)

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果及び住民の満足度	今後の課題及び取組方向
総務企画部	渡辺 哲也	地域企画課	企画・地域振興班	花方 聡	0186-62-1251	地域防災力強化事業	防災関係機関ネットワークを強化し、自主防災組織リーダー研修を通じて地域住民の防災意識の向上を測る必要がある。	206,247	直営	①防災関係機関ネットワーク会議(9月10日) ②自主防災組織リーダー研修 ・大館会場(10月6日)参加者50名 ・北秋田会場(10月9日)参加者68名 ③地域防災セミナー「雪対策セミナー」(1月31日)参加者60名	県・大館市・北秋田市・上小阿仁村	県民(自主防災組織リーダー)	平成26年4月1日	自主防災組織リーダー研修及び地域防災セミナーについては、アンケートで8割以上の参加者から開催の意義を感じており、内容については、良い～普通が8割以上、役立つとした参加者が8割以上となっている。	地域の自主防災組織リーダーの高齢化が課題。防災意識を高め、技術を維持していくためには継続的な取組が必要。
						平成26年4月1日～平成27年3月31日									
総務企画部	渡辺 哲也	地域企画課	企画・地域振興班	花方 聡	0186-62-1251	高齢化トッピングナー北秋田 シニアが支えるまちづくり事業	県内で最も高齢化が進行している北秋田地域において、高齢者が地域を支えていこうとする気運を醸成する。	138,360	直営	「Gちゃん」サミット in 北秋田市」を開催。 開催日:2月14日 参加者:350名 内容:基調講演、シンポジウム、ステージ発表	県・北秋田市	県民(主に高齢者)	平成26年4月1日	アンケート調査によると基調講演及びシンポジウムについては8割の参加者が良かったと回答しており、各界で活躍しているパネラーから刺激を受けたという回答も多かったことから事業効果があった。	北秋田市中心の参加となったことから、より広域的な交流の場としていくこととし、継続的な取組とする。
						平成26年4月1日～平成27年3月31日									
大館福祉環境部、鷹巣阿仁福祉環境部	相澤 寛、石山 明	健康・予防課	健康・予防班	斉藤 美春、岩谷 暢子	0186-52-3952、0186-62-1165	受動喫煙防止対策推進事業	平成23年度に実施した喫煙対策実態調査(大館鹿角地域を対象)により、事業所内での受動喫煙対策が進んでいない現状が明らかになったことから、生活習慣病予防の推進のためたばこ対策を実施する。併せて宿泊施設や飲食店における受動喫煙対策を推進するための実態調査や利用客の意識調査を行う。	520,554	直営	前年度に引き続き、職場における受動喫煙対策を実施した。また、平成26年度からは宿泊施設や飲食店など多数の人が利用する施設における受動喫煙対策を実施した。 ①職場におけるたばこ対策オリンピック事業「めがせ!ゴールドメダル」 ②地域イベントにおける受動喫煙防止及び禁煙指導 ③「おいしい空気の提供店」観光サービス向上事業	県	鹿角・北秋田地域振興局管内事業所及び地域住民	平成26年4月1日	「おいしい空気の提供店」観光サービス向上事業で実施したアンケート調査からは、宿泊施設や飲食店の受動喫煙対策の現状や利用客の要望を知ることができ、今後の事業の推進に役立った。 ・アンケート調査結果から、喫煙者・非喫煙者にかかわらず、高い割合で飲食店の入口で店内が禁煙かどうかを望んでいることが判明したもので、ステッカーを作成し、施設に配布した。 ・関係者との「意見交換会」は、事業を推進するに当たり共通理解を得ることができ有益であった。	「職場におけるたばこ対策オリンピック事業」は、商工会議所会報へのちらしの折り込みやイベントでのPR、世界禁煙デーの新聞広告、労働基準監督署や薬剤師会主催研修会でのPR等を実施したが、申込みが伸び悩んだ。来年度は労働基準監督署と連携し、受動喫煙防止対策助成金の情報提供を合わせて周知することで申込みを増やしていきたい。 ・「おいしい空気の提供店」観光サービス向上事業で実施したアンケート結果から、管内の受動喫煙対策実施施設情報を取りまとめ、必要な利用客に届けられるよう取り組んでいきたい。また、利用客の要望を施設側に伝えることで対策の向上を図っていく。 ・事業の推進にあたっては、関係者から意見を聞く「意見交換会」を継続する。
						平成26年4月1日～平成27年3月31日									
建設部	小野 久喜	企画調査課	企画監理班	加賀谷 直樹	0186-62-3111	北秋田まち美化活動推進事業	道路や河川等の公共空間において、快適な環境づくりを推進するとともに、地域住民のまちづくり意識及び参画意識の醸成を図るため、企業や学校、自治会等を対象にアダプトプログラムによる官民協働の取り組みを実施する。	134,970	直営	・13団体と協定締結(企業9、自治会4) ・5団体に補助金交付(企業1、自治会4) ・活動内容:清掃・美化活動(道路8、河川4、公園1)	県	企業・学校・自治会	平成26年4月1日	実施団体と協定を結び、認定書を発行したりPR看板を設置することで、美化活動への参加意欲の向上を図った。	既存の参加団体による活動の継続や、新規団体の発掘により事業の拡大を図る。
						平成26年4月1日～平成27年3月31日									

(地域施策推進事業)

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果及び住民の満足度	今後の課題及び取組方向
総務企画部	渡辺 哲也	地域企画課	企画・地域振興班	花方 聡	0186-62-1251	同種、異業種の企業交流会事業	農業者と商工業者の情報交流を図り、互いの強みを活かした新しいビジネスチャンスの可能性を探る。	101,838	直営	大館・北秋田 農&商交流サロン」の開催 開催日：2月25日 講演(県食品加工研究所長)、事例発表(株しんこや、鷹巣観光物産(株)、たしろラズベリー研究会)	県	県民(農業者、商工業者)	平成26年4月1日	参加者のアンケートでは、事例発表について9割以上の参加者が役立ったとしている。	より効果的な交流会とするため、広範な農業者の参加が課題である。
						平成26年4月1日～平成27年3月31日									
農林部	高橋 徹	農業振興普及課	担い手・経営班	泉 誠	(0186)62-3950	「エダマメのまち」推進事業	JAあきた北農産物流通加工センターの稼働を契機とし、大館産枝豆のPR活動と地元消費拡大等を行うことで「えだまめのまち大館」を市内外に周知し、産地としての知名度をあげ、レベルアップを図る。	399,536	負担金	ノベルティグッズ製作・HP等での情報発信・スイーツコンテスト開催・えだまめ成分分析・剥き豆、ペースト無償配布・えだまめスイーツ試験販売等	大館市えだまめ産地育成研究会	枝豆生産者 市内菓子店 枝豆消費者	平成26年4月1日	HP、フェイスブック等、各種PR資材により、「えだまめのまち」をPRすることで、大館市がえだまめの産地であるという知名度は高まっている。特に、大館市内の菓子製造者によるえだまめスイーツの製造がスタートするなど、関連産業から新しい動きが見えるようになり、関係機関からも注目されている。	産地レベルが県内でもまだ不十分であり、食味向上による評価のアップも含め、大館市から外に向けての更なるPRが次年度以降の課題である。また、研究会を構成する組織(大館市、JAあきた北、大館商工会議所)では、活動を継続する意向ではあるものの、これまでどおりで良いか、次の課題を明確にする必要がある。
						平成26年4月1日～平成27年3月31日									
農林部	高橋 徹	農業振興普及課	担い手・経営班	工藤 三之	(0186)62-3950	北秋田アグリビジネス支援事業	農業者の高齢化、後継者不足等農業を取り巻く環境が厳しくなる中、地域農業の担い手として、集落営農組織や大規模経営農業者の法人化を支援するとともに、それら法人等の経営の複合化・多角化(6次産業化)を推進し、アグリビジネスに取り組む経営体を育成する。	91,582	直営	12月4日 ①先進地視察研修(株)真瀬ファーム ②6次産業化セミナー キャッスルホテル能代 参加16名	県	農業法人等	平成26年4月1日	個人事業主としての経営から転換し、法人による経営の管理、運営手法について学ばせることが出来た。年間を通じた経営の必要性を学ぶとともに、手法として6次産業化への理解を深めさせることができた。	米価下落の影響が予想以上に著しく、高齢化の進展とともに深刻な問題である。大規模な園芸団地等を運営するなど、米依存から脱却した経営への転換を図る必要がある。
						平成26年4月1日～平成27年3月31日									
総務企画部	渡辺 哲也	地域企画課	観光推進班	渡部 進雄	0186-62-1251	森吉山周辺地域滞在型観光推進事業	新たな観光モデルの構築に向けて北秋田市根森田地区において、田舎暮らし体験メニューの構築と実証、担い手などの基盤づくりを行う。	100,000	負担金	①根森田発滞留型観光商品開発委員会の開催 ②モニターツアーの実施(10月25日～26日) ③根森田地区ガイドマップの作成(5,000部)	根森田発滞留型観光商品開発委員会	県内及び県外在住者	平成26年4月1日	①モニターツアー参加者へのアンケート結果では、参加者全員から好評価を得ている。 ②ツアー参加をきっかけに北秋田市への1年間の移住に繋がった事例あり。	①体験ツアーの磨き上げが必要 ②担い手組織の育成が必要
						平成26年4月1日～平成27年3月31日									
総務企画部	渡辺 哲也	地域企画課	観光推進班	沓澤 琢也	0186-62-1251	地域の持続的な観光力強化事業	大館・北秋田地域の観光を県内外にPRするとともに、地元の受入体制を充実させることにより交流人口の拡大を図る。	958,139	直営・委託費	①エージェント訪問・招聘訪問 首都圏2回、関西1回 ②地元ガイド団体研修会2回開催(6月、8月) ③観光未来塾2回開催(2月、3月)	県	県外観光事業者、県内観光関係者	平成26年4月1日	①エージェント訪問の結果、記事掲載など県外PRができたほか、地域の観光素材を直接売り込むことができた。 ②地元団体の技術向上や、交流につながった。 ③次世代の観光を担う人材の交流ができた。	①継続的な訪問を行うほか、新しい情報等を適切なタイミングで提供する。 ②③自発的な取り組みへの啓発
						平成26年4月1日～平成27年3月31日									
総務企画部	渡辺 哲也	地域企画課	観光推進班	渡部進雄	0186-62-1251	大館能代空港、秋田内陸線の利用促進事業	大館能代空港と秋田内陸線の利活用を促進する。	182,520	直営・委託費	①大館能代空港利用促進協議会へのオブザーバー参加 ②秋田内陸線・羽羽北線沿線連絡協議会への参加 ③庁舎前啓発看板のリニューアル(空港・内陸線PR看板) ④広域観光ガイドマップ「空からハイキング」作成(10,000	県	県内及び県外在住者	平成26年4月1日	①大館能代空港の搭乗率が平成25年度46.8%から48.9%にアップした。 ②内陸線については、引き続き定期、定期外とも輸送人員のアップに向けた取り組みが必要。	大館能代空港及び秋田内陸線の認知度を高めるためのPR活動を継続するとともに、各団体の利用促進に向けた取り組みに参画する。
						平成26年4月1日～平成27年3月31日									

(地域施策推進事業)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
総務企画部	渡辺 哲也	地域企画課	観光推進班	小笠原 寿	0186-62-1251	田んぼアートによる景観づくり事業	観光客がまた訪れたいとなる景観をつくり、内陸線の利用促進の一助とする。	736,207	委託・直営	田んぼアートの設置(2箇所)(平里、小淵)	県	内陸線利用者	平成26年4月1日	内陸線田んぼアートを見るために乗車したとの声がある。 また、田植え・稲刈りに参加する団体が増加するなど地域一体となって内陸線を応援しようという意識が醸成されつつある。	協議会等による運営組織のあり方について検討が必要。仙北地域との連携強化を進める。
						平成26年4月1日～平成27年3月31日							平成27年10月22日		
総務企画部	渡辺 哲也	地域企画課	観光推進班	沓澤 琢也	0186-62-1251	地域が認め、全国に流通する商品づくり事業	地域の食の情報を発信し、特産品の販路拡大や、食を通じた交流人口の拡大を目的とする。	1,319,189	直営・負担金	①上小阿仁村食農観協議会 研修会、食農観連携事業等を実施 ②グルメ秋まつり9月開催(17社出店) ③北鹿の恵みマッチング事業 鹿角振興局と合同で、県外バイヤーとの商談会等を実施	①上小阿仁村食農観丸ごと推進協議会 ②グルメ秋まつり実行委員会 ③県	管内食品事業者、県内及び県外在住者	平成26年4月1日	①村内の受入体制、人材の育成や新たな商品開発につながった。 ②来場者が8,000人と、多数の人に食の情報を発信できた。 ③管内7社が取引若しくは、商品に興味を持ち交渉することができた。	①体験メニューの確立と、受入する人材育成。食農分野の強化。 ②継続開催や、会場選定の検討 ③終了
						平成26年4月1日～平成27年3月31日							平成27年10月22日		
総務企画部	渡辺 哲也	地域企画課	企画・地域振興班	花方 聡	0186-62-1251	大館・北秋田名物馬肉スタンプラリー事業	北秋田地域の食文化である馬肉に脚光を当て、観光資源として情報発信を強化する。	261,030	直営	馬肉スタンプラリー「ウマップ」 期間:10月1日～11月30日 参加店舗:17店 スタンプラリー参加者:62名	県、大館市、北秋田市、上小阿仁村	県民	平成26年4月1日	新たに若い層の集客につながるなど、馬肉料理に訴求力があることが確認できた。馬肉料理についても好評であり、満足度は高い。	馬肉をはじめとした地域の食文化についての情報発信の強化を推進する必要がある。
						平成26年4月1日～平成27年3月31日							平成27年10月22日		